

竹田iPグループに期待する“情熱と革新”を 人的資本経営の視点から考える

持株会社体制に移行した2023年、初の女性取締役に就任した山本光子氏。
業界最大級の総合人材サービス会社、パーソルテンプスタッフの創業メンバーであり、
現在も相談役を務める同氏に、社外取締役の立場から主に人材領域についてお話しいただいた。



竹田iPホールディングス株式会社
社外取締役

山本光子

Profile

- 1983年 3月 ウーマンスタッフ株式会社入社
- 1985年 4月 同社取締役営業本部長
- 1998年 9月 ピープルスタッフ株式会社に社名変更、
同社専務取締役
- 2016年 7月 テンプスタッフ株式会社と統合、
同社取締役専務執行役員
- 2017年 7月 パーソルテンプスタッフ株式会社に社名変更
- 2019年 7月 同社取締役
- 2020年 7月 同社相談役[常勤(現任)]、
学校法人名城大学監事[非常勤(現任)]
- 2021年 6月 中央発條株式会社社外取締役(現任)
- 2022年 6月 アイカ工業株式会社社外取締役[監査等委員(現任)]
- 2023年 6月 当社社外取締役(現任)、
名糖産業株式会社社外取締役[監査等委員(現任)]

ごあいさつ

私が社外取締役に就任して1年が経過しましたが、竹田iPホールディングス(竹田iP)が過去100年、先の見えない経済環境のなか、今日まで果敢に生き抜いてきたことに先ずもって敬意を表したいと思います。

「印刷」という分野だけではなく高精度のフォトマスク、デジタル製品、ソフトウェア開発等、顧客の課題解決に役立つ商材を積極的に展開し、将来を見据えた海外への投資も実施してきました。竹田iPの成長は、役員のみならず社員の皆さまの日々の営みによって築きあげられたものと感謝しております。



中期経営計画について

竹田iPホールディングスが発表した中期経営計画では、「2024年はこれまでの守りの経営から攻めの経営へ転換する第二の創業年」と位置づけられています。さらなる成長への歩みを止めることなく進化しようとしており、社員の皆さまには大変大きな期待を寄せています。

人材に関していえば、重点施策の一つに「企業価値向上と社員の幸せの両立を実現するための、人的資本への積極投資、女性活躍推進」が掲げられており、会社と社員が同じ方向を向いて、ともに成長しようとする結びつきを重要視するトップの強い意志を感じます。

人材市場の動向と竹田iP

ご存じのとおり日本の労働環境は変化の最中にありま

す。人材の流動化やコンプライアンスの適用範囲の拡大で、人権の尊重という観点でも様々なルールが生まれました。この環境変化を中高年・壮年・青年と世代を問わず全社員が理解し、価値観や言動を共有しなければなりません。時代の変化が加速度的ですから、個人も企業も連続的なアップデートが必要になりました。

人的資本経営とは人材を「資源=活用して消費」するのではなく、「資本=投資して能力を開発」する対象であるという経営の考え方です。

竹田iPは上場企業として必要な制度や規程は既にしっかりと整っています。今後は社員の能力を開発するために、制度や規則の運用を社員が心身ともに安心して働き成長できるよう、明確で現場でのリアリティが感じられる内容にブラッシュアップし、行動や習慣につなげることが求められるのだと思います。

グループのさらなる発展

竹田iPは傘下に16の事業会社、約1,200人の社員を有する規模の会社でこれからも成長拡大するでしょう。規模が拡大し多様な人材が集まったとき大事にしたいのは、経営層と従業員、グループ会社間で企業理念を共有し「一緒にグループの未来を考え、語り合えること」だと思います。それにはまず今まで以上に対話の機会を増やし、お互いを理解を深めることが第一歩かもしれません。一方的な伝達ではなく上司からの語りかけ、感動や賞賛、共感をできるだけ言葉にして周囲に伝えていきましょう。

社会も会社も大きな転換期を迎えている今、竹田iPホールディングスの社名になぞらえて、皆さんの情熱Passionが革新innovationを起こす日を期待しています。



最後になりますが、皆さまには創業100年を迎えた会社への誇りと、先人の苦勞や困難を克服してきた功勞への敬意と感謝を忘れず、自分が今「やりたいこと、次世代につなげられることは何か」を考え、健康で楽しく働いてくださることを願っています。